

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-113369

(43) 公開日 平成10年(1998) 5月6日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>

識別記号

F I

A 6 1 H 7/00

3 0 0

A 6 1 H 7/00

3 0 0 A

A 6 1 K 7/00

A 6 1 K 7/00

Z

W

審査請求 有 請求項の数30 O L (全 12 頁)

(21) 出願番号 特願平9-70225  
(22) 出願日 平成9年(1997) 3月24日  
(31) 優先権主張番号 特願平8-239869  
(32) 優先日 平8(1996) 8月21日  
(33) 優先権主張国 日本 (J P)

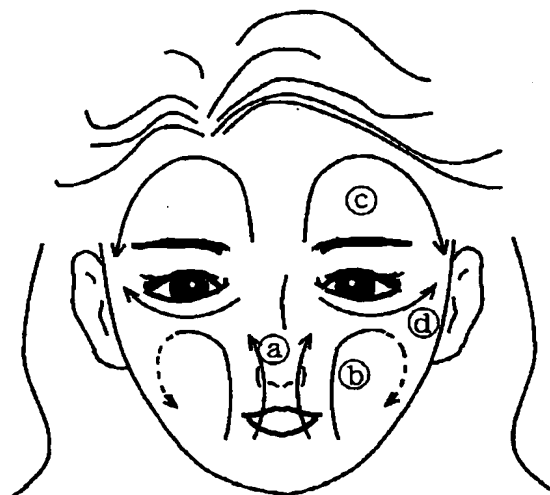
(71) 出願人 000000918  
花王株式会社  
東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号  
(72) 発明者 永嶋 義直  
東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会  
社研究所内  
(72) 発明者 南 孝英  
東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会  
社研究所内  
(72) 発明者 矢田 幸博  
東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会  
社研究所内  
(74) 代理人 弁理士 田治米 登 (外1名)

(54) 【発明の名称】 美容方法

(57) 【要約】

【課題】 一般人でも手軽にマッサージにより大きな美容効果を得られるようにする。

【解決手段】 まず動脈の血流方向にマッサージし、次いで静脈の血流方向にマッサージする。この方法で顔をマッサージする場合には、(a) 口もとから小鼻を通る線を描くようにマッサージし、その後、(b) 頬を口もとから下眼瞼を通り耳の方へ円を描くように行うマッサージ、(c) 額を眉間付近から額上部を通して両端部へ円弧を描くように行うマッサージ、及び(d) 下眼瞼を目元から目尻の方へ行うマッサージを任意の順序で行うか、あるいは(a)、(b) 及び(c) のマッサージを各2~3回ずつ、(a)、(b)、(c) の順序で2~3回繰り返し、次いで(d) のマッサージを2~3回行うことが好ましい。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 まず動脈の血流方向にマッサージし、次いで静脈の血流方向にマッサージすることを特徴とする美容方法。

【請求項2】 マッサージする部位に化粧品を適用してマッサージする請求項1記載の美容方法。

【請求項3】 マッサージする部位が、身体である請求項1記載の美容方法。

【請求項4】 マッサージする部位が、顔である請求項1記載の美容方法。

【請求項5】 まず口もとから小鼻を通る線を描くようにマッサージし、次いで頬を口もとから下眼瞼を通り耳の方へ円を描くようにマッサージする請求項4記載の美容方法。

【請求項6】 まず口もとから小鼻を通る線を描くようにマッサージし、次いで頬を眉間付近から額上部を通して両端部へ、円弧を描くようにマッサージする請求項4記載の美容方法。

【請求項7】 まず口もとから小鼻を通る線を描くようにマッサージし、次いで下眼瞼を目元から目尻の方へマッサージする請求項4記載の美容方法。

【請求項8】 (a) 口もとから小鼻を通る線を描くようにマッサージし、その後、(b) 頬を口もとから下眼瞼を通り耳の方へ円を描くように行うマッサージ、(c) 頬を眉間付近から額上部を通して両端部へ円弧を描くように行うマッサージ、及び(d) 下眼瞼を目元から目尻の方へ行うマッサージを任意の順序で行う請求項4記載の美容方法。

【請求項9】 (a) 口もとから小鼻を通る線を描くように行うマッサージ、(b) 頬を口もとから下眼瞼を通り耳の方へ円を描くように行うマッサージ及び(c) 頬を眉間付近から額上部を通して両端部へ円弧を描くように行うマッサージを、各2〜3回ずつ、(a)、(b)、(c)の順序で2〜3回繰り返す、次いで(d) 下眼瞼を目元から目尻の方へ行うマッサージを2〜3回行う請求項8記載の美容方法。

【請求項10】 両手の指全体でマッサージする請求項1〜9のいずれかに記載の美容方法。

【請求項11】 化粧品が、崩壊性粒子を含有する請求項2〜10のいずれかに記載の美容方法。

【請求項12】 崩壊性粒子が崩壊性顆粒又は崩壊性マイクロカプセルである請求項11記載の美容方法。

【請求項13】 化粧品が、血行促進剤を含有する請求項11記載の美容方法。

【請求項14】 血行促進剤がニコチン酸トコフェロール、酢酸トコフェロール、ニコチン酸アミド、センブリエキス、オトギリソウエキス、イチヨウエキス、アルニカエキス、ハマメリスエキス、トウキンセンカエキス、マロニエエキス、エンメイソウエキス、サルビアエキス、ハマボウフウエキス、米胚芽油及びボダイジュエキ

スから選ばれる請求項13記載の美容方法。

【請求項15】 化粧品が、屈折率1.444以上又はSP値16.5以上の油剤を含有する請求項11記載の美容方法。

【請求項16】 油剤がイソノナン酸イソトリデシル、ジカプリン酸ネオペンチルグリコール、1-イソステアロイル-3-ミリスチルグリセロール、トリ2-エチルヘキサン酸グリセリン、スクワラン、1,3-ミリスチルグリセロール、モノイソステアリン酸ジグリセリン、ジイソステアリン酸ジグリセリン、トリイソステアリン酸ジグリセリン及び乳酸オクチルドデシルから選ばれる請求項15記載の美容方法。

【請求項17】 化粧品が、美白剤を含有する請求項11記載の美容方法。

【請求項18】 美白剤が、L-アスコルビン酸、アルブチン、コウジ酸、プラセンタエキス、カミツレエキス、茶エキス、カコンエキス及びカンゾウエキスから選ばれる請求項17記載の美容方法。

【請求項19】 化粧品が、皮脂分泌抑制剤を含有する請求項11記載の美容方法。

【請求項20】 皮脂分泌抑制剤が、エストラジオール、スルホ石炭酸亜鉛、酸化亜鉛、ローヤルゼリー、10-ヒドロキシウンデカン酸及び12-ヒドロキシステアリン酸から選ばれる請求項19記載の美容方法。

【請求項21】 化粧品が液状化粧品である請求項2〜20のいずれかに記載の美容方法。

【請求項22】 請求項1〜21のいずれかに記載のマッサージを行う血行促進方法。

【請求項23】 請求項1〜21のいずれかに記載のマッサージを行う肌色改善方法。

【請求項24】 請求項1〜21のいずれかに記載のマッサージを行うむくみ低減方法。

【請求項25】 請求項1〜21のいずれかに記載のマッサージを行うにきび予防・解消方法。

【請求項26】 請求項1〜21のいずれかに記載のマッサージを行う化粧崩れ防止方法。

【請求項27】 請求項1〜21のいずれかに記載のマッサージを行う皮膚のはり改善方法。

【請求項28】 請求項1〜21のいずれかに記載のマッサージを行う皮膚のたるみ改善方法。

【請求項29】 請求項1〜21のいずれかに記載のマッサージを行う化粧のり改善方法。

【請求項30】 請求項1〜21のいずれかに記載のマッサージを行うことからなるマッサージ方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、血流に沿った方向にマッサージすることにより、短時間のマッサージで大きなマッサージ効果を得、それにより肌色改善等について著しい美容効果を達成する美容方法に関する。

## 【0002】

【従来の技術】従来より、血行を促進し、皮膚にはりや艶をもたせるという美容効果を得るためにマッサージが行なわれている。

【0003】このマッサージは、やり方によってはかえってしわやたるみの原因となることが知られている。そのため、通常は、美容師等の専門者によってなされており、当該マッサージ部位におけるマッサージ方向やマッサージにかかる時間、及びマッサージする部位の順序等は専門者に委ねられている。そして、専門者によるマ

## 【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、マッサージの血行促進及びそれに伴う種々の波及効果は大きいことから、一般人でも自ら手軽にマッサージできるようにすることが望ましい。

【0005】本発明は以上のような従来技術の課題を解決しようとするものであり、一般人でも手軽に行うことができ、かつ大きなマッサージ効果を得、それにより大きな美容効果を達成する新たな美容方法を提供することを目的とする。

## 【0006】

【課題を解決するための手段】上記の目的を達成するため、本発明は、まず動脈の血流方向にマッサージし、次いで静脈の血流方向にマッサージすることを特徴とする美容方法を提供する。

【0007】また、この美容方法のより具体的態様として、特に顔をマッサージ部位とする場合に、まず、(a) 口もとから小鼻を通る線を描くようにマッサージし、その後、(b) 頬を口もとから下眼瞼を通り耳の方へ円を描くように行うマッサージ、(c) 額を眉間付近から額上部を通して両端部へ円弧を描くように行うマッサージ、及び(d) 下眼瞼を目元から目尻の方へ行うマッサージのいずれかを行う美容方法、あるいは(a) のマッサージの後、(b)、(c)、(d) のマッサージを任意の順序で行う美容方法を提供する。さらに、中でも好ましい顔の美容方法として、(a) 口もとから小鼻を通る線を描くように行うマッサージ、(b) 頬を口もとから下眼瞼を通り耳の方へ円を描くように行うマッサージ及び(c) 額を眉間付近から額上部を通して両端部へ円弧を描くように行うマッサージを、各2～3回ずつ、(a)、(b)、(c) の順序で2～3回繰り返す、次いで(d) 下眼瞼を目元から目尻の方へ行うマッサージを2～3回行う美容方法を提供する。

【0008】また、このようなマッサージからなる美容方法を行うに際して化粧料を使用する態様、特に、崩壊性粒子、必要に応じてさらに血行促進剤、油剤、美白剤又は皮脂分泌抑制剤を含有する化粧料を使用する態様を提供する。

【0009】また、このようなマッサージを行うことに

よる血行促進方法、肌色改善方法、むくみ低減方法、にきび予防・解消方法、化粧崩れ防止方法、皮膚のはり改善方法、皮膚のたるみ改善方法及び化粧のり改善方法を提供し、このようなマッサージからなる美容のためのマッサージ方法を提供する。

【0010】本発明の美容方法は、血流に沿ってマッサージし、筋繊維の方向に逆らわないので、専門者でなく一般人が行っても、しわやたるみの原因とならない。さらに本発明の美容方法は、単に血流に沿ってマッサージするだけでなく、まず、動脈の血流方向にマッサージし、次に、静脈の血流方向にマッサージするので、短時間のマッサージで大きなマッサージによる美容効果を得ることができる。例えば、1日1回30秒程度のマッサージを3週間～6週間程度続けることにより大きなマッサージによる美容効果を得ることができる。

【0011】また、本発明の美容方法を、化粧料、特に崩壊性粒子を含有する化粧料を皮膚に適用しつつ行うと、一層大きなマッサージ効果を得ることができ、必要に応じてさらに血行促進剤、油剤、美白剤又は皮脂分泌抑制剤等を配合した化粧料を用いてマッサージを行うと、これら各成分の効果も大きく高めることができる。即ち、崩壊性粒子を含有する化粧料をマッサージに使用すると、マッサージ時に崩壊性粒子が徐々に崩壊していき、その崩壊した粒子が皮膚表面の様々なスケールの凹凸に入り込み、その時点での粒子の大きさに応じた物理的刺激を皮膚に付与する。ここで、化粧料が血行促進剤も含有すると、血行促進剤は皮膚へスムーズに浸透し、末梢循環器系が積極的に改善される。さらに、崩壊性粒子の物理的血行促進効果と血行促進剤の薬理学的血行促進効果との相乗効果によって皮膚の血行が大きく改善される。したがって、血行不順により生じる肌色のむら、くすみ、つやのなさ等が防止され、皮膚の肌色が顕著に改善される。また、化粧料に油剤、美白剤又は皮脂分泌抑制剤が添加されている場合も、それらの添加効果が大きく発揮される。

## 【0012】

【発明の実施の形態】以下、本発明を詳細に説明する。

【0013】本発明の美容方法は、身体及び顔の任意の部位をマッサージ対象とするが、いずれの部位をマッサージする場合でも、当該マッサージ部位において、まず、動脈の血流方向にマッサージし、次に静脈の血流方向にマッサージすることを基本とする。この場合、当該マッサージ部位において、静脈の血流方向にマッサージする前に動脈の血流方向にマッサージする限り、動脈あるいは静脈の血流方向のマッサージをそれぞれ重複して行ってもよく、また当該マッサージ部位全体に対して動脈の血流方向のマッサージを行った後は、そのマッサージ部位内の任意の部分では、その部分について静脈の血流方向のマッサージのみ行ってもよく、またその部分について再度動脈の血流方向のマッサージを行い、その後

その部分について静脈の血流方向のマッサージを行って  
もよい。

【0014】例えば、顔をマッサージする場合、図1に  
示したように、まず、(a) 顔面動脈の血流方向にしたが  
って、口もとから小鼻を通る線を描くようにマッサージ  
する。その後、必要に応じてさらに顔面動脈が分岐した  
動脈の血流方向にそってマッサージし、次いで顔面静脈  
もしくは浅側頭静脈又はこれらに注ぐ静脈の血流方向に  
沿ったマッサージを行う。すなわち、(b) 眼角動脈の血  
流方向次いで浅側頭静脈の血流方向に沿うように頬を口  
もとから下眼瞼を通り耳の方へ円を描くようにマッサー  
ジするか、(c) 眼窩上動脈の血流方向次いで浅側頭静脈  
の血流方向に沿うように額を眉間付近から額上部を通っ  
て両端部へ円弧を描くように行うマッサージするか、  
(d) 下眼静脈及び浅側頭静脈の血流方向に沿うように下  
眼瞼を目元から目尻の方へマッサージする。あるいは  
(a) のマッサージを行った後、(b)、(c)、(d) のマッサー  
ジを任意の順序で行う。

【0015】このようなマッサージからなる美容方法の  
なかでも特に好ましい方法としては、(a) のマッサージ  
を2〜3回行った後、(b) 及び(c) のマッサージをこの  
順序で2〜3回繰り返し、次いで(d) のマッサージを2  
〜3回行う。この場合、(a)〜(d) のマッサージが20  
秒〜60秒程度で完了するようにする。

【0016】一方、顔以外の部位、例えば身体をマッサー  
ジする場合には、図2に示したように、まず心臓より  
動脈系に沿うか、あるいは脳もしくは脊髄より神経系に  
沿って遠心性にマッサージし、次に図3に示したよう  
に、末梢より静脈あるいはリンパ系に沿って求心性にマ  
ッサージを行う。

【0017】また、本発明においては、マッサージを手  
のひらや指の腹で、好ましくは指の腹全体でマッサージ  
する部位の皮膚上を滑らせるように行うことが好まし  
い。

【0018】さらに、マッサージに際しては、予め皮膚  
に化粧料を適用しておくことが好ましい。この場合化粧  
料としては、マッサージクリーム、マッサージオイルな  
ど種々のマッサージ用化粧料を使用することができる  
が、特に、崩壊性粒子を含有するものが好ましい。

【0019】ここで、崩壊性粒子としては、化粧料を皮  
膚に適用している間の摩擦、水の作用、熱等により崩壊  
する限り、種々の粒子を使用することができる。例え  
ば、一次粒子を造粒することにより得られる崩壊性顆  
粒、シェアをかけることにより崩壊する崩壊性マイクロ  
カプセル等をあげることができる。

【0020】このうち、崩壊性顆粒としては、水不溶性  
の1次粒子と結合剤とからなるものを使用することがで  
きる。ここで、崩壊性顆粒の製造に使用する水不溶性の  
1次粒子としては、ポリエチレン、ポリスチレン、ポリ  
エステル、ポリ塩化ビニル、ポリアミド、ポリプロピレ

ン、ナイロン、ポリフッ化ビニリデン、ポリウレタン、  
アクリル樹脂、ポリシロキサン、結晶性セルロース、デ  
ンプン及びこれらの誘導体の有機高分子化合物や、シリ  
カ、アルミナ、タルク、カオリン、酸化チタン、酸化亜  
鉛、石英、リン酸カルシウム等の無機粉体等を挙げること  
ができる。

【0021】これらの1次粒子の形状は、球状、不定形  
等のいずれでもよいが、特に安全性の点から、球状であ  
るのが好ましい。また、1次粒子の平均粒径は、1〜2  
0  $\mu\text{m}$ 、特に3〜15  $\mu\text{m}$ であるのが好ましい。さらに  
目への安全性を考慮すると、その80重量%以上が10  
 $\mu\text{m}$ 以下、特に4〜10  $\mu\text{m}$ であるのが好ましい。

【0022】また、崩壊性顆粒の製造において、結合剤  
は、上記の水不溶性の1次粒子を結合して崩壊性顆粒を  
形成するものである。この場合、結合剤による1次粒子  
の結合強度は、崩壊性顆粒がマッサージ又は摩擦によっ  
て皮膚上で容易に崩壊する程度とする。結合剤の具体例  
としては、例えば、魚油、硬化ヒマシ油、硬化ナタネ油  
等の常温で固体の動植物油、エチルセルロース、アセチ  
ルセルロース、ニトロセルロース、ヒドロキシメチルセ  
ルロース、ヒドロキシアセチルセルロース、ヒドロキシ  
プロピルセルロース、ポリビニルピロリドン、酢酸ビニル  
等の有機高分子化合物をあげることができる。

【0023】以上のような1次粒子と結合剤とから崩壊  
性顆粒を形成する方法は、例えば流動層造粒法、攪拌造  
粒法、押し出し造粒法等の一般的な造粒法によることが  
でき、特に、水不溶性の結合剤に1次粒子を分散さ  
せ、溶剤を揮散させて製造する方法（特開昭60-15  
2407号公報）、あるいは水不溶性の結合剤粉末を顆  
粒の1次粒子と混合した後、水溶性結合剤で造粒し、次  
いで加熱して水不溶性の結合剤粉末を溶融し冷却して顆  
粒の耐水性を高める方法（特開平6-271417号公  
報）などにしたがって形成することができる。

【0024】形成する崩壊性顆粒の粒径は、100〜1  
000  $\mu\text{m}$ とすることが好ましく、より好ましくは20  
0〜600  $\mu\text{m}$ とする。100  $\mu\text{m}$ 未満では、マッサー  
ジ効果が乏しく、マッサージに伴う血行促進効果や肌色  
改善効果についても顕著な効果を得られない。1000  
 $\mu\text{m}$ を超えると皮膚に擦りつける際の初期刺激が強  
すぎ、使用感が低下するので好ましくない。

【0025】一方、崩壊性マイクロカプセルとしては、  
例えば、特開昭59-78510号公報、特開昭61-  
282306号公報、特開平1-125313号公報、  
特開平5-92909号公報のようにして製造されるもの  
を使用することができる。ここで、崩壊性マイクロカ  
プセルのカプセル材としては、例えば、ゼラチン、アル  
ギン酸ナトリウム、アルギン酸プロピレングリコールエ  
ステル、ポリアクリル酸、ポリメタクリル酸、ポリアク  
リル酸メチルエステル、ポリアクリル酸エチルエステ  
ル、ポリアクリル酸ブチルエステル、ポリメタクリル酸

メチルエステル、ポリメタクリル酸エチルエステル、ポリメタクリル酸ブチルエステル、アラビアゴム、カルボキシメチルセルロース、ヒドロキシエチルセルロース、メチルセルロース、ポリアクリル酸ナトリウム、カルボキシビニルポリマー、ポリビニルアルコール、ポリアクリルアミド、ポリビニルピロリドン、ポリエチレンオキサイド、カゼイン、ペクチン、ポリアクリロニトリル、ポリ酢酸ビニル、ポリビニルエーテル、ポリスチレン、寒天、カラギーナン、コーンスターチ、グルテン、デキストリン、グアーガム、ローカストビンガム、ポリ塩化ビニル、ポリ塩化ビニリデン、ポリエチレン、ポリエチレングリコールジメタクリレート、ポリジビニルベンゼン、ポリプロピレン、ポリブタジエン等の高分子化合物1種もしくは2種以上の混合物、または上記ポリマーを構成しているモノマーを2種以上組み合わせたコポリマー等が挙げられる。

【0026】また、マイクロカプセルに内包する材としては、後述する血行促進剤、油剤、美白剤、皮脂分泌抑制剤、保湿剤、柔軟剤、色剤、香料、溶剤等を配合することができる。

【0027】崩壊性マイクロカプセルの粒径は、前述の崩壊性顆粒と同様に100～1000 $\mu$ mとすることが好ましく、より好ましくは200～600 $\mu$ mとする。

【0028】なお、本発明において崩壊性顆粒又は崩壊性マイクロカプセル等の崩壊性粒子の粒径は、光散乱法、光回折法等で測定することにより得られる平均粒径である。

【0029】本発明において、上述のような崩壊性粒子を含有する化粧料を用いてマッサージする場合、そのマッサージ時間は、所定のマッサージ部位に化粧料を塗布し、手のひらや指の腹で、好ましくは親指を除く四指の指の腹全体で所定部位を軽くマッサージし、崩壊性粒子の感触がなくなった時点を目安とすればよい。この時間は、通常、20秒～60秒程度である。

【0030】また、本発明が達成する美容効果には、より具体的には、血行促進効果や、それに伴う種々の効果、例えば色ムラやくすみをとり、艶や透明感を高めるといった肌色改善効果や、むくみをとる効果や、にきびの予防と低減を図る効果や、化粧崩れを防止する効果や、皮膚のはりやたるみを改善する効果や、化粧のりを改善する効果等があり、これらの効果を、上述のような崩壊性粒子を含有する化粧料をマッサージに使用することにより、一層高めることができるが、さらに、血行促進、肌色改善、むくみ低減、にきび予防・解消、化粧崩れ防止、皮膚のはりの改善、皮膚のたるみの改善、化粧のりの改善等のマッサージの具体的目的に応じて、崩壊性粒子を含有する化粧料に種々の添加剤を配合することができる。そして、化粧料の配合成分や各成分の配合割合を適宜定めることができる。

【0031】例えば、マッサージにより大きな肌色改善

効果を得ようとする場合、上述の崩壊性粒子を化粧料中に0.1～5重量%、特に0.5～3重量%配合することが好ましい。0.1重量%未満では肌色改善の効果に乏しく、5重量%を超えるとマッサージの開始当初に違和感が感じられるので好ましくない。

【0032】この他、マッサージによる肌色改善効果を大きく向上させる場合には、血行促進剤を含有させることが好ましい。血行促進剤としては、血行促進効果のある公知の物質を種々使用することができるが、例えば、特開昭62-87506号公報に記載されている血管拡張剤であるビタミンEのエステル化物、ニコチン酸エステル、又はオロチン酸エステルや特開昭62-195316号公報に記載されている末梢循環促進剤であるビタミンEのエステル化物、酢酸エステル、又はコハク酸エステルを用いることができ、また、ニコチン酸アミド、ニコチン酸メチル等も用いることができる。また、植物抽出エキス類として、血行促進効果が、1986年発刊のフレグランスジャーナル臨時増刊号第6巻や1979年発刊のフレグランスジャーナル臨時増刊号第1巻等に明記されているエキス類、例えば、アルニカ、サンザシ、キナ、サルビア、ボダイジュ、オタネニンジン、トショウ、マンネンロウ、オトギリソウ、イチョウ、メリッサ、オノニス、マロニエ、センブリ、ニンニク、カミツレ、サイム、ハッカ、イラクサ、トウガラシ、ショウガ、ホップ、西洋トチノキ、ラベンダー、ニンジン、カラシナ、ケイ、マツ、センキュウ、ニワトコ、ヤマゼリ、ハシリドコロ、ボタン、ヤマモモ、ドクダミ、コウホネ、シブガキ、トウキンセンカ、グビジンソウ、リンドウ、ブドウ、ハマボウフウ、ダイダイ、ユズ、ショウブ、ナツミカン、ハマメリス、メリーロート、ウイキョウ、サンショウ、シャクヤク、ユーカリ、ヨモギ、エンメイソウ、コメ、クララ、ショウキョウ、チョウジ等を用いることができる。

【0033】これらの内、血行促進効果の点から、ニコチン酸トコフェロール、酢酸トコフェロール、ニコチン酸アミドが好ましく、植物抽出エキスとしては、センブリエキス、オトギリソウエキス、イチョウエキス、アルニカエキス、ハマメリスエキス、トウキンセンカエキス、マロニエエキス、エンメイソウエキス、サルビアエキス、ハマボウフウエキス、米胚芽油、ボダイジュエキスが好ましく、特に、ニコチン酸トコフェロール、マロニエエキスが好ましい。また、これらの血行促進剤は、1種又は2種以上を合わせて使用することができ、通常、化粧料の0.001～5重量%、特に0.01～3重量%配合することが好ましい。

【0034】また、崩壊性粒子に加えて、皮膚につやを付与する油剤、メラニンに関係するしみ、そばかす、色黒等を改善する美白剤、及び毛穴の色素沈着防止などに効果のある皮脂分泌抑制剤を同時に配合すると、それらの添加効果が増強して得られるので好ましい。

【0035】ここで、皮膚につや感を付与する油剤としては、光の乱反射を抑え、皮膚につやを付与し、肌色のむらをなくせるようにする点から、その屈折率が1.444以上、又は、SP値が16.5以上のものを使用することが好ましい。ここで、SP値とは有機性及び無機性より計算される溶解性パラメータをいう。

【0036】このような条件に該当する油剤のうち、屈折率が1.444以上のものとして、例えば、イソノナン酸イソトリデシル、トリ2-エチルヘキサン酸グリセリン、ジカプリン酸ネオペンチルグリコール、1-イソステアロイル3-ミリスチルグリセロール、アジピン酸ジイソステアリル、流動イソパラフィン、スクワラン、モノイソステアリン酸ジグリセリン、ジイソステアリン酸ジグリセリン、トリイソステアリン酸ジグリセリン、トリ(カプリル・カプリン酸)グリセリル、ミリスチン酸イソトリデシル、ミリスチン酸オクチルドデシル、ミリスチン酸ヘキシルデシル、ネオデカン酸オクチルドデシル、月見草油、ホホバ油、アボガド油、ブドウ油、タートル油、ミント油、オレンジラフィー油、ポリオキシエチレンメチルポリシロキサン共重合体等をあげることができる。

【0037】また、SP値が16.5以上の油剤としては、例えば、イソノナン酸イソトリデシル、トリイソステアリン酸ジグリセリン、テトライソステアリン酸ジグリセリン、トリイソステアリン酸トリメチロールプロパン、ジオクタン酸ネオペンチルグリコール、リンゴ酸ジイソステアリル、乳酸オクチルドデシル、トリ2-エチルヘキサン酸グリセリン、1-イソステアロイル3-ミリスチルグリセロール、1,3-ミリスチルグリセロール、アジピン酸イソステアリル等をあげることができる。これらのうち、イソノナン酸イソトリデシル、ジカプリン酸ネオペンチルグリコール、1-イソステアロイル3-ミリスチルグリセロール、トリ2-エチルヘキサン酸グリセリン、スクワラン、1,3-ミリスチルグリセロール、モノイソステアリン酸ジグリセリン、ジイソステアリン酸ジグリセリン、トリイソステアリン酸ジグリセリン、乳酸オクチルドデシルが好ましく、なかでも、イソノナン酸イソトリデシル、ジカプリン酸ネオペンチルグリコール、1-イソステアロイル3-ミリスチルグリセロールが好ましい。これらの油剤は、1種または2種以上を配合して用いることができる。

【0038】また、美白剤としては、例えば「フレグランスジャーナル臨時増刊号No.14(1995年)」に掲載されている一般の美白剤、例えば、アスコルビン酸及びその誘導体、ハイドロキノン誘導体、コウジ酸及びその誘導体、胎盤抽出物、植物エキスなどを用いることができる。

【0039】より具体的には、アスコルビン酸及びその誘導体として、L-アスコルビン酸リン酸エステル

ルカリ金属塩であるL-アスコルビン酸リン酸エステルナトリウム塩、L-アスコルビン酸リン酸エステルカリウム塩、アルカリ土類金属塩であるL-アスコルビン酸リン酸エステルマグネシウム塩、L-アスコルビン酸リン酸エステルカルシウム塩、3価の金属塩であるL-アスコルビン酸リン酸エステルアルミニウム塩、また、L-アスコルビン酸硫酸エステルアルカリ金属塩であるL-アスコルビン酸硫酸エステルナトリウム塩、L-アスコルビン酸硫酸エステルカリウム塩、アルカリ土類金属塩であるL-アスコルビン酸硫酸エステルマグネシウム塩、L-アスコルビン酸硫酸エステルカルシウム塩、3価の金属塩であるL-アスコルビン酸硫酸エステルアルミニウム塩、L-アスコルビン酸のアルカリ金属塩であるL-アスコルビン酸ナトリウム塩、L-アスコルビン酸カリウム塩、アルカリ土類金属塩であるL-アスコルビン酸マグネシウム塩、L-アスコルビン酸カルシウム塩、3価の金属塩であるL-アスコルビン酸アルミニウム塩、等を挙ることができる。

【0040】ハイドロキノン誘導体としては、例えば、ハイドロキノンを糖との縮合物、ハイドロキノンを炭素数1~4のアルキル基を一つ導入したアルキルハイドロキノンと糖との縮合物等が挙げられる。

【0041】コウジ酸及びその誘導体としては、例えばコウジ酸、コウジ酸モノブチレート、コウジ酸モノカプリレート、コウジ酸モノパルミテート、コウジ酸モノステアレート、コウジ酸モノシナモエート、コウジ酸モノベンゾエート等のモノエステル、コウジ酸ジブチレート、コウジ酸ジパルミテート、コウジ酸ジステアレート、コウジ酸ジオレート等のジエステル等が挙げられる。

【0042】胎盤抽出物としては、水溶性プラセンタエキスとして一般に市販され化粧品原料として使用されているものを用いることができ、例えば牛や豚又はヒト等の哺乳動物の胎盤を洗浄、除血、破碎、凍結等の工程を経て、水溶性成分を抽出した後、更に不純物を除去して得られるものを挙げるることができる。

【0043】植物エキスとしては、カンゾウ、カッコン、黒豆、エンレイソウ、アマナ、ハナスゲ、ジャノヒゲ、チトセラン、ウラジロガシ、インチンコウ、カミツレ、チョウセンアザミ、シオン、米、チョウジ、ウコン、ツルレイシ、サンヤク、アロエ、茶、ユキノシタ、オウゴン、ビワ、トウヒ、コウライニンジン、アルテア、キナ、コンフリー、ローズマリー、ロート、ホンダワラ等の抽出エキスが挙げられる。

【0044】これらの内、特に好ましい美白剤として、L-アスコルビン酸、アルブチン、コウジ酸、プラセンタエキス、カミツレエキス、茶エキス、カッコンエキス、カンゾウエキス等を挙げるることができる。また、これらの美白剤は1種または2種以上を配合して用いることができる。

【0045】 皮脂分泌抑制剤としては、「フレグランスジャーナルNo. 10 (1994年)」に掲載されている一般の皮脂分泌抑制剤、例えば、抗男性ホルモン剤、生薬エキス、収斂剤などを用いることができる。

【0046】 より具体的には、抗男性ホルモン剤として、オキシンドロン、17- $\alpha$ -メチル- $\beta$ -ノルテストステロン、クロマジノンアセテート、サイプロテロンアセテート、スピロラクトン、ヒドロキシフルタミド、エストラジオール、エチニルエストラジオール等が挙げられる。

【0047】 生薬エキスとしては、クルミの葉、オウゴン、セージ、ホップ、ローズマリー、オトギリソウ、ハッカ、カミツレ、何首烏、黄連、黄柏、黄芩、重葯、陳皮、人參、ジャクヤク、トウシン、プロポリス、タクシア、タンニン、ハママリス、ボタン、樺木タール、ローヤルゼリー、コウボ等の抽出エキスが挙げられる。

【0048】 収斂剤として、スルホ石炭酸亜鉛、酸化亜鉛、アルミニウムヒドロキシクロライド、アラントインジヒドロキシアルミニウム等が挙げられる。

【0049】 その他、ビタミンB6、13-シスノイン酸、ビタミンE、グリチルレチン酸、サリチル酸、ニコチン酸、パントテン酸カルシウム、アゼライン酸ジカリウム、10-ヒドロキシウンデカン酸、12-ヒドロキシステアリン酸等も皮脂分泌抑制剤として用いることができる。

【0050】 これらの内、好ましい皮脂分泌抑制剤として、エストラジオール、スルホ石炭酸亜鉛、酸化亜鉛、ローヤルゼリー、10-ヒドロキシウンデカン酸、12-ヒドロキシステアリン酸等を挙げることができる。また、これらの皮脂分泌抑制剤は、1種または2種以上を配合して用いることができる。

【0051】 本発明がマッサージに使用する化粧料としては、上述の各成分の他、通常の皮膚外用剤や、洗浄剤、マッサージ剤等に用いられる保湿剤、柔軟剤、界面活性剤、角層保護剤、増粘剤、防腐剤、pH調整剤、香料、酸化防止剤、色剤、薬効剤、溶剤等の各種成分を含有したものも使用することができる。

【0052】 ここで保湿剤としては、例えば、エチレングリコール、ジエチレングリコール、トリエチレングリコール、それ以上のポリエチレングリコール類、プロピレングリコール、ジプロピレングリコール、それ以上のポリプロピレングリコール類、1,3-ブチレングリコール、1,4-ブチレングリコール等のブチレングリコール類、グリセリン、ジグリセリン、それ以上のポリグリセリン類、ソルビトール、マンニトール、キシリトール、マルチトール等の糖アルコール類、グリセリン類のエチレンオキシド (以下、EOと略記する)・プロピレンオキシド (以下、POと略記する) 付加物、糖アルコール類のEO・PO付加物、ガラクトース、フルクトース等の単糖類とそのEO・PO付加物、マルトース、ラ

クトース糖の多糖類とそのEO・PO付加物、マルナーズ、ラクトース等の多糖類とそのEO・PO付加物、ピロリドンカルボン酸ナトリウム、ポリオキシエチレンメチルグルコシド (EO付加モル数=10、20等) 等が挙げられる。

【0053】 柔軟剤としては、例えば、 $\alpha$ -ヒドロキシ-イソ酪酸、 $\alpha$ -ヒドロキシイソカプロン酸、 $\alpha$ -ヒドロキシ-n-カプロン酸、 $\alpha$ -ヒドロキシイソカプリル酸、 $\alpha$ -ヒドロキシ-n-カプリル酸、 $\alpha$ -ヒドロキシ-n-カプリン酸、乳酸、 $\alpha$ -ヒドロキシステアリン酸、クエン酸、グリコール酸等の $\alpha$ -ヒドロキシ酸類、リジン、アルギニン、ヒスチジン、オルニチン、カナニン等の塩基性アミノ酸類、 $\epsilon$ -アミノカプロン酸、尿素、2-ヒドロキシグアニジン、2-(2-ヒドロキシエトキシ) エチルグアニジン等のアミン類の他、特開昭62-99315号公報や特開平2-178207号公報に記載されているペプチド類、特開平6-293625号公報に記載されているトリメチルグリシンが挙げられる。

【0054】 界面活性剤としては、例えば、ポリオキシエチレン (以下、POEと略記する)、硬化ヒマシ油、POEアルキルエーテル、POE分岐アルキルエーテル、POE脂肪酸エステル、POEグリセリン脂肪酸エステル、POEソルビタン脂肪酸エステル、POEソルビトール脂肪酸エステル、POE硬化ヒマシ油アルキル硫酸エステル、POEアルキル硫酸エステル、ポリグリセリン脂肪酸エステル、アルキルリン酸エステル、POEアルキルリン酸エステル、脂肪族アルカリ金属塩、ソルビタン脂肪酸エステル、グリセリン脂肪酸エステル、アルキルポリグルコシド、ポリエチレングリコール脂肪酸エステル、 $\alpha$ -モノイソステアリルグリセリルエーテル、ステアロイルメチルタウリンナトリウム、POEラウリルエーテルリン酸ナトリウム、エーテル変性シリコン等が挙げられる。

【0055】 角層保護剤としては、例えば、ヒアルロン酸、コンドロイチン硫酸等のムコ多糖類、ゼラチン、コラーゲン等の蛋白質、特開昭64-10997号公報記載の酸性ヘテロ多糖類等が挙げられる。

【0056】 また、増粘剤としては、例えば、カラギーナン、デキストリン、メチルセルロース、エチルセルロース、ヒドロキシエチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、ポリビニルアルコール、ポリアクリル酸、ポリアクリル酸ナトリウム、メタクリル酸、カルボキシビニルポリマー、キサントガム、カルボキシメチルキチン、キトサン、カチオン化セルロース等の高分子化合物、ケイ酸アルミニウムマグネシウム、ペントナイト等の無機化合物等が挙げられる。

【0057】 本発明においてマッサージに化粧料を使用する場合、上述のような成分からなる化粧料は液状あるいは固形状のいずれでもよいが、液状とし、定量吐出容

器に収容して使用することが好ましい。これにより、マッサージ時に簡便な操作で適量な一定量を吐出させることができる。なお、ここで液状とは、クリーム状、ペースト状、ジェル状、O/W乳化状、W/O乳化状のいずれも含む意味である。また、ここで定量吐出容器としては、化粧料の流路における目詰まりや吐出不良を防止するために、化粧料の最狭流路径が、液状化粧料に含有されている崩壊性粒子の粒径よりも大きいものを使用することが必要である。このような定量吐出容器の種類としては、特に制限はないが、例えば、ポンプ容器、計量容器などをあげることができる。

【0058】このうち、ポンプ容器は、シリンダー及びピストンからなるポンプ室を有し、ピストンを上下動させることによりポンプ室の容量により定まる化粧料を定量吐出させるものである。ポンプ容器の中にも種々のタイプのものが包含されるが、本発明においてはこれらを広く使用することができる。

【0059】

【実施例】以下、本発明を実施例により具体的に説明する。

【0060】実施例1及び比較例1

40代の健常女性20名を2群に分け、マッサージ化粧料として、表1の組成の化粧料を使用し、各群に対して以下のようにA方法（実施例1）及びB方法（比較例1）を1回30秒間で終えるようにし、それを1日1回浴室で6週間行った。そして、各方法のマッサージ開始前とマッサージ開始6週間後の皮膚状態を、皮膚血流、くすみ指数、はり指数について以下のように求め比較した。この結果を図4～図6に示す。

【0061】

【表1】 マッサージ化粧料	(重量%)
精製水	89.9
崩壊性顆粒(*1)	1.0
血行促進剤：ニコチン酸-dl-α-トコフェロール	1.0
ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油	1.0
カルボキシビニルポリマー	0.5
3%水溶性コラーゲン液	1.0
グリセリン	5.0
L-アルギニン	0.5
パラオキシ安息香酸メチル	0.1

【0062】(\*1)崩壊性顆粒：1次粒子としてポリエチレン粉末（平均粒径5μm）91重量%、結合剤として硬化ナタネ油3重量%とヒドロキシプロピルセルロース6重量%とを使用し、特開平6-271414号公報に記載の方法にしたがって製造したもの。

【0063】A方法（実施例1）

(A-1) 手のひらに約2mL化粧料を取り、顔全体に伸ばした。(A-2) 両手の四指（ひとさし指～小指）の全体で、口もとから小鼻を通る線を描くように2～3回マッサージし（図1の(a)方向参照）、(A-3) 頬の中心から

外側へ円を描くように2～3回マッサージし（図1の(b)方向参照）、(A-4) 額の中心から外側へ弧を描くように2～3回マッサージし（図1の(c)方向参照）、(A-5) (A-2)～(A-4)を3回繰り返し、(A-6) 目の下を外側へ3回ゆるやかに弧を描くようにマッサージし（図1の(d)方向参照）(A-7) めるま湯で洗い流す。

【0064】B方法（比較例1）

(B-1) 手のひらに約2mL化粧料を取り、顔全体に伸ばした。(B-2) 両手の四指（ひとさし指～小指）の全体で、小鼻から口を通る線を描くように2～3回マッサージし（(A-2)と反対方向）、(B-3) 頬の外側から中心へ円を描くように2～3回マッサージし（(A-3)と反対方向）、(B-4) 額の中心から外側へ弧を描くように2～3回マッサージし（(A-4)と反対方向）、(B-5) (B-2)～(B-4)を3回繰り返し、(B-6) 目の下を内側へ3回ゆるやかに弧を描くようにマッサージし（(A-6)と反対方向）(B-7) めるま湯で洗い流す。

【0065】この場合、皮膚血流はレーザー組織血流量計で測定した。

20 【0066】くすみ指数に関しては、専門判定者5名の目視判定により、肌色が暗い状態から肌色が明るい状態を1～10の10段階に区分し、その平均値をくすみ指数とした。

【0067】はり指数に関しては、はりがない状態からはりがある状態を1～10の10段階に区分し、その平均値をはり指数とした。

30 【0068】図4～図6の結果から、まず動脈の血流方向にマッサージし、次に静脈の血流方向にマッサージする本発明の美容方法によると、マッサージ方向を反対にした比較例の美容方法に比して皮膚血流、くすみ、はりのいずれについても、優れた美容効果を得られることが確認できた。

【0069】実施例2、比較例2及び比較例3

マッサージ化粧料として、崩壊性顆粒及び血行促進剤を含有しない以外は表1と同様の組成の化粧料を使用し、実施例1と同様にA方法を行い、マッサージ開始前とマッサージ開始6週間後の皮膚状態を皮膚血流、くすみ指数、はり指数について評価した（実施例2）。

40 【0070】また、A方法に代えて、従来の美容方法であるC方法（比較例2）あるいはD方法（比較例3）を以下に行う以外は実施例2と同様に崩壊性顆粒及び血行促進剤を含有しない化粧料を使用し、マッサージ開始前とマッサージ開始6週間後の皮膚状態を皮膚血流、くすみ指数、はり指数について評価した。この結果を図7～図9に示す。なお、これらの図には、参考のため、上述の実施例1の結果も合せて示す。

【0071】C方法（比較例2）

(C-1) 手のひらに約2mL化粧料を取り、顔全体に伸ばし、(C-2) 図10に示すように、額を下から上に両手で交互にすりあげるマッサージを3回行い（同図a）、(C



-3) 眉間から外側へ螺旋を3つ描くようにマッサージし(同図b)、(C-4) 鼻の横を上下に3回軽く指先を動かしてマッサージし(同図c)、(C-5) 口角をあげるように口の周りをすりあげるマッサージを3回行い(同図d)、(C-6) 頬は上中下3段に分けてそれぞれらせん状にすりあげるマッサージを2回行い(同図e)、(C-7) 目の周りを1周するマッサージを3回行い(同図f)。

【0072】以上の(C-1)～(C-7)を約3～5分で行う。なお、このC方法は、心臓より遠い部位から近い部位へと求心性にマッサージを行う方法である。この方法は、血管の分布に沿ってマッサージするが、血液の流れに沿ったものではない。

#### 【0073】D方法(比較例3)

(D-1) 手のひらに約2mL化粧料を取り、顔全体に伸ばし、(D-2) 図11に示すように、首の中央から側面を両手のひらで下から上へ交互にこすりあげるマッサージを3回行い(同図a)、(D-3) 唇の下、前額の中央に両手の人差し指を置き、中指は下顎において左右交互に耳の下まですりあげるマッサージを3回行い(同図b)、(D-4) 両手の中指と薬指を前額に置き、唇の両端に向かって螺旋を描くようにマッサージし、さらに上唇の上方へすべらせるマッサージを3回行い(同図c)、(D-5) 両手の中指と薬指で小鼻の両側を上下に3回マッサージし(同図d)、(D-6) 鼻の先端から上に向けてすりあげるマッサージを3回行い(同図e)、(D-7) 中指と薬指で唇の横、小鼻の横あるいは鼻の中央からそれぞれこめかみに向けてすりあげるマッサージを3回ずつ行い(同図f)、(D-8) 中指と薬指で唇の横、小鼻の横あるいは鼻の中央からそれぞれこめかみに向けて螺旋を描くマッサージを3回ずつ行い(同図g)、(D-9) 両手の指全体を使って頬全体を軽く3回パッティングし、(D-10) 中指と薬指を上眼瞼にのせ、圧力を加えながら目頭から目尻の方向へ静かに指をすべらせ(同図h) (D-11) 指先で額全体を下から上へ交互に垂直にすりあげるマッサージを3回行い(同図i)。以上の(D-1)～(D-11)を約3～5分で行う。

【0074】なお、このD方法は、心臓から遠心性にマッサージを行う方法である。この方法では、心臓から皮膚組織への血液の供給は考慮されているが、皮膚組織から心臓への血流は考慮されていない。

【0075】図7～図9の結果から、崩壊性粒子を含有したマッサージ化粧料を使用しない場合でも、まず動脈の血流方向にマッサージし、次に静脈の血流方向にマッサージする本発明の美容方法によると、血液の循環方向が考慮されていない従来の美容方法に比して、皮膚血流、くすみ、はりのいずれについても、優れた美容効果を得られることが確認できた。

#### 【0076】

【発明の効果】本発明によれば、一般人でもマッサージを手軽に行うことができ、かつマッサージによる大きな美容効果を得ることができる。より具体的には、血行促進、肌色改善、むくみ低減、にきびの予防と解消、化粧崩れの防止、皮膚のはりの改善、たるみの改善、化粧のりの改善という種々の効果を得ることができる。したがって、本発明は日常的に行えるスキンケアの一つとして、有用な方法となる。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の美容方法における顔のマッサージの説明図である。

【図2】本発明の美容方法における身体のマッサージの説明図である。

【図3】本発明の美容方法における身体のマッサージの説明図である。

【図4】実施例及び比較例のマッサージ開始前及びマッサージ開始6週間後の皮膚血流を示すグラフである。

【図5】実施例及び比較例のマッサージ開始前及びマッサージ開始6週間後のくすみ指数を示すグラフである。

【図6】実施例及び比較例のマッサージ開始前及びマッサージ開始6週間後のはり指数を示すグラフである。

【図7】実施例及び比較例のマッサージ開始前及びマッサージ開始6週間後の皮膚血流を示すグラフである。

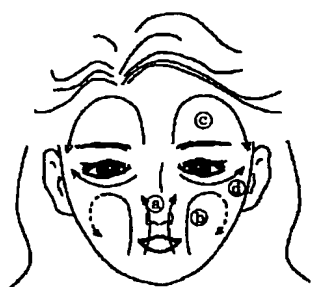
【図8】実施例及び比較例のマッサージ開始前及びマッサージ開始6週間後のくすみ指数を示すグラフである。

【図9】実施例及び比較例のマッサージ開始前及びマッサージ開始6週間後のはり指数を示すグラフである。

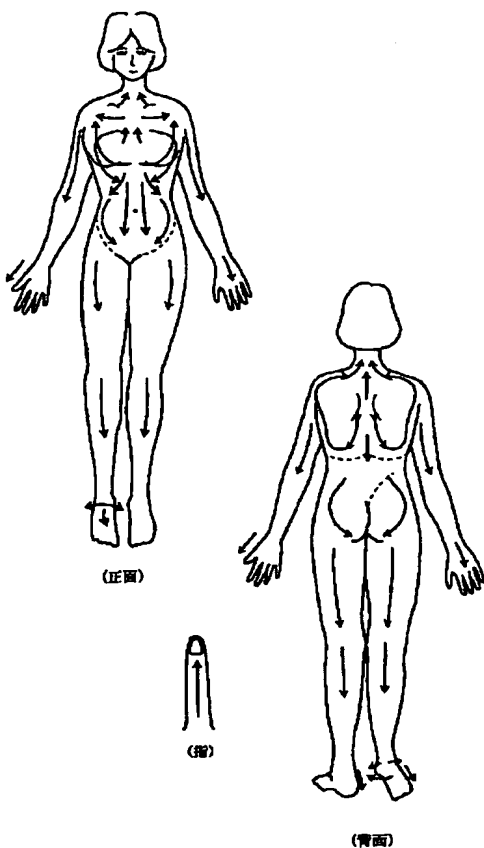
【図10】従来の美容方法における顔のマッサージの説明図である。

【図11】従来の美容方法における顔のマッサージの説明図である。

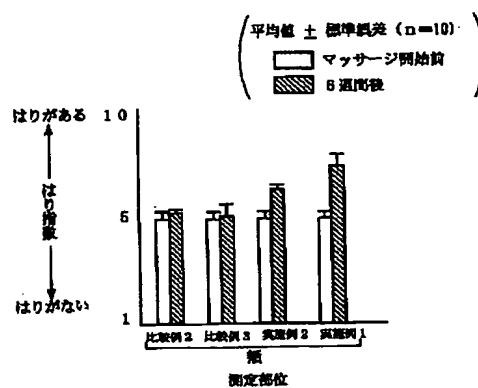
【図1】



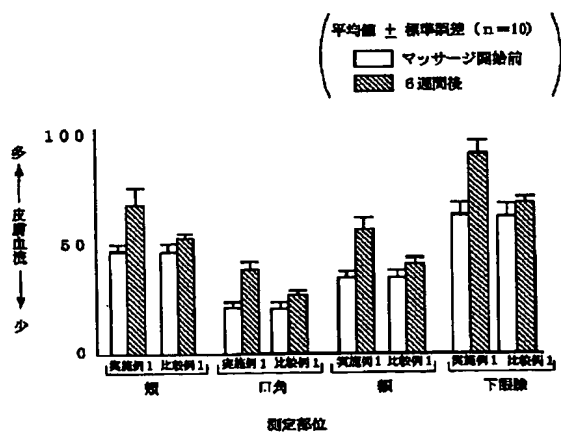
【図2】



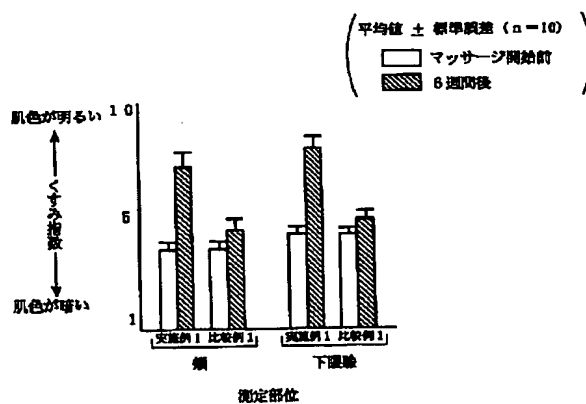
【図9】



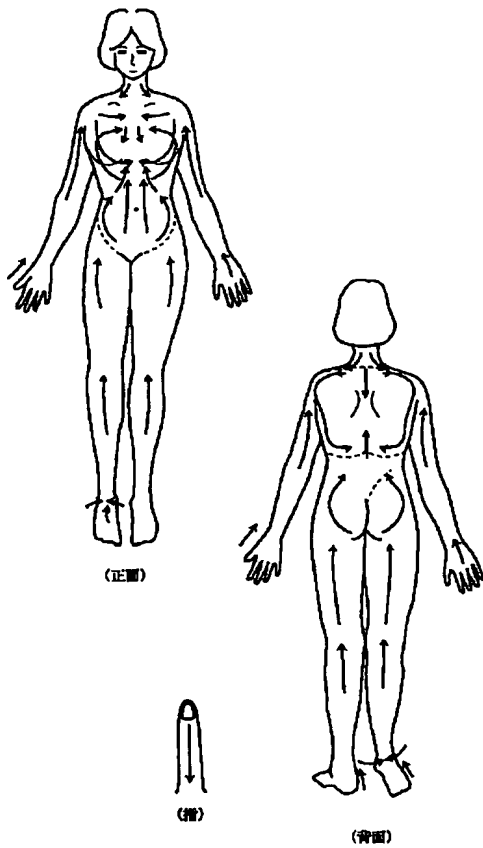
【図4】



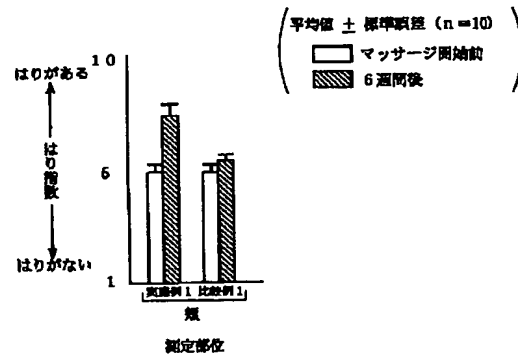
【図5】



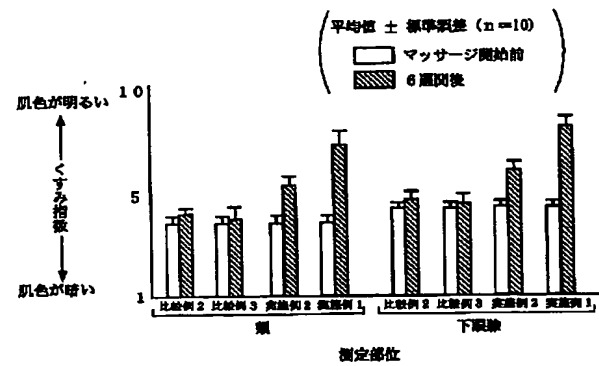
【図3】



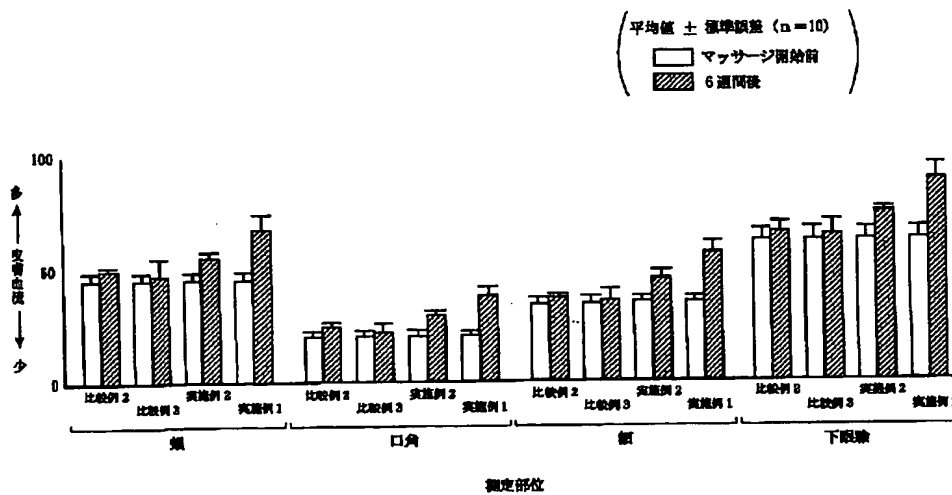
【図6】



【図8】

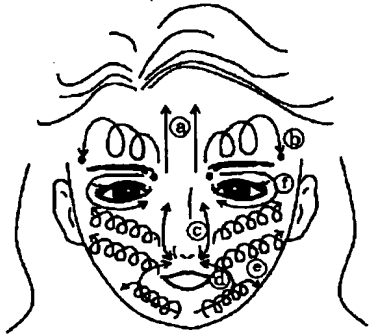


【図7】



【図10】

C方法



【図11】

D方法

